

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 丹羽 慶樹

論 文 題 目


Accuracy of carbon dioxide insufflation for endoscopic retrograde  
cholangiopancreatography using double-balloon endoscopy

(ダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡的逆行性胆膵管造影検査における  
二酸化炭素送気の有用性)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

小寺 泰弘 


名古屋大学教授

委員

長 紀 恒 二 

名古屋大学教授

委員

安藤 雄一 

名古屋大学教授

指導教授

藤 城 亮 弘 

## 論文審査の結果の要旨

別紙 1 - 2



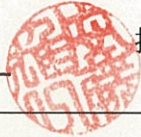

今回透視 CO<sub>2</sub> 送気法(CDE)を用いた経路選択の正確性を前向きに調査することにより、術後再建腸管患者の DBERC における CDE の有用性を評価した。評価項目としては標的への経路を選択するための CDE の正解率、吻合部からの目視と CDE の間の正解率と検査時間の比較とした。対象の患者において目視と CDE による評価をそれぞれ行いお互いの経路選択方法の精度を比較した結果、CDE が DBERC を受けた術後再建腸管患者において吻合部における正しい経路を正確に選択したことが示された。また平均総挿入時間は既報よりも短く、特に CDE が正確に経路を選択した場合、総挿入時間が短くなった。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. CDE で目標方向と判断したルートに進んだら目標に到達した場合、もしくは目視で決めたルートで CDE により骨盤内が造影されたため、逆ルートに進んだら目標に到達した場合に正解と定義した。
2. 重篤な空気塞栓の報告もあるとのことだが、当院ではそれも含めて目立った合併症は起きていないと認識している。
3. 空腸-空腸吻合(Roux-en-Y 再建および肝移植による)、胃-空腸吻合(Billroth II 法再建および膵頭十二指腸切除術による)の 2 群での検討を行った。CDE は両方の群で目視より正確であった。CDE を用いた経路選択率は、空腸-空腸吻合群より胃-空腸吻合群において高かった。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	丹羽 慶樹		
試験担当者	主査	小寺 泰弘		副査 <sub>1</sub>	長 忍 恒	
	副査 <sub>2</sub>	安藤 雄一		指導教授	藤 成 亮 弘	
(試験の結果の要旨)						
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本研究での透視CO<sub>2</sub> 送気法(CDE)の正解パターンの定義について</li> <li>2. 当院における透視CO<sub>2</sub> 送気法(CDE)での合併症について</li> <li>3. 腸管再建術式による結果の違いについて</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>						